

学びの場 諏訪に若者集え

来月から公開シンポ・中高生向けワークショップ

諏訪地方の企業経営者や元学校長らを中心に今年4月、発足したNPO法人「SUWA次世代の学び推進フォーラム」は、8月から開く公開シンポジウムと、中高生を対象にした「学びのワークショップ」の受講者の募集を始めた。次世代を担う子どもの学びを応援する初の企画だ。

経営者らのNPO企画

シンポは8月に2回開催。9日は諏訪市の温泉保養施設「片倉館」で、諏訪清陵高校出身の八巻和彦・早大名誉教授と林久喜・筑波大教授が「次世代を担う若者への期待」について講演する。

と題して対談する。12日は市公共スペース「駅前交流テラスすわつチャオ」で、元文部科学官僚の寺脇研さんが新学習指導要領実施の背景などに「G's」「たのしい数学」「地

事務局長 北原克彦さんに聞く

NPO法人「SUWA次世代の学び推進フォーラム」の講座は、事務局長でメディアプロデューサーの北原克彦さん(73)＝原村＝が中心とな

って準備を進めてきた。NPO設立の背景、ワークショップの特徴について聞いた。

―なぜNPO設立か。
学校の学びは大きな転換期を迎えている。知識を詰め込むだけでは人工知能(AI)やロボットに太刀打ちできない。自ら考える力、課題を解決する力が子どもたちに必要。高校の同級生らに相談して立ち上げることにした。

―事業の特徴は。

身近な話題を分かりやすい切り口で紹介し、子どもたちに興味をもってもらおう内容にする。ワークショップ

図から読む世界情勢」の4講座を設け、定員は各20人とする。12月12日には4講座の受講者が集まり、学習の成果を発表する機会も設ける。

―は自分で問題を発見し、調べて、結果を発表する。専門家と一緒にサポートし、学校と連携しながら子どもたちが学ぶモチベーションを下げたくない。

―子どもたちに身に付けてほしいことは。

私は60歳まで映像制作の仕事をしてきて、企画力の大切さを実感してきた。自分なりに物事を考えられる力を育てることで、生きる力をつけてほしいと思っている。

―今後、行いたいことは。

今夏は新型コロナで見送ったが、小学生や中学生が筑波宇宙センターや国立科学博物館など首都圏の博物館などを訪問する「学びのツアー」を来年夏には行いたい。本物を見ることで学びのモチベーションにつなげたい。



事業の背景などを説明する北原事務局長

自ら考え 課題解決する力を

「地 mxa.mesh.ne.jp」>

長(☎080・5407・8

995)、メール(njbs@

フォーラムの北原克彦事務局

申し込み、問い合わせは同

発表する機会も設ける。